

子どもの意見

Ⅰ 家庭と子ども

（以下省略）

「かぞくつうしんぼ」

(一九六七・一二)

●ことをふりかえって、わが家の人たちに点をつけた。みんなに5をつけたいけど、5も4も一つしかないんだ。わるい点をつけられても、おこらないでね。

榎本 佳江

父 3 ビールをコップ一ぱいで、よっぱらってしまふ。

母 4 いろいろ買ってくれる。

兄 1 夜、ねごとでまで歌をうたう。

祖父 2 頭のはげぐあいがおもしろい。

祖母 5 おこづかいをたくさんくれる。

佐藤 正彦

父 3 おふろにはいるとお説教がはじまる。

母 4 勉強、勉強とうるさいことだ。

大嶋 昭彦

姉 5 やさしいし、いいおねえさんだ。

大嶋 昭彦

父 3 いつもやさしいから。

母 4 ちょっとおこりすぎた。お年玉のぐあいで、このつぎは5にしてあげる。

兄 2 へやにはいるとすぐおこる。

自分 5 よく勉強したから。

中野 裕久

父 4 まい日、まじめにしごとをしてくれてうれしい。おこりっぱいから5になれない。

母 5 まい日、朝早くおきてごはんのしたくや、せんたくやおそうじをよくしてくれる。

兄 3 どこかへいくとき、オートバイにのせてくれる。本も買ってくれるけど、おこるのがよくない。

姉 2 まいあさぼくにおこされる。

妹 1 ぼくのいうことをきかないから。

本望 工

父 2 おさけをすこしのむから1にしようとしたけど、早おきするから2にした。

母 4 おこってばかりいるけど、ときどきおこづかいをくれるから。
自分 5 よく勉強して、おてつだいもよくやったから。

本田 たま

父 1 ことはあまりおもちゃを買ってくれなかったから、いい点はあげられない。
母 5 あまりおこらないから大すき。

兄 3 おかしをくれたり、十円をくれたりするから。
妹 2 いもうとはいつもけんかあいてだ。

自分 4 学校のつうしんぼもよかったし、学級いんにもなったから。でも妹を泣かせておこられることもある。

清水 みね子

父 4 勉強をよくおしえてくれるけど少しおこる。

母 2 わたしがテレビをみているとすぐ「おふろにはいりな」といって、テレビをけしてしまふ。だから大きらいだ。

妹 1 すぐめそめそ泣くのどうるさい。

弟 5 いまは三つだけとてもかわいい。

高木 ひろお

高水 ひろお

父 5 つりにいくとき、ぼくをつれていくからいい。

母 3 あまりおこづかいをくれないから。

兄 4 あにきは、ゲームにぼくをいれてくれるからいい。

内田 義明

父 3 トイレでいつもしんぶんをよむ。

母 4 いつもごはんのおかずがうまい。

妹 1 いつもけんかのげんいんは妹だ。

井上 陽子

父 4 りょこうにいくと、おみやげを買ってきてくれる。

母 3 おこりんぼだけれど、やさしいし勉強もみてる。

姉 2 本を自分でいいほうをさきによんじゅうから。

自分 1 むだづかいをしないけど、あそんではかりい。

「テレビ・チャンネルのとりっこ」

(一九六五・四)

小学 男子

子どもがみる日と、おとなが見る日ときめればいい。子どもの日は、おとなは手だししなければ、チャンネルあらそいなんかないのに、おとなはすぐにおせっかいをやくからだめた。

小学 女子

わたしは野球はだいきらいだけど、おとうさんがつかれてかえってきて好きならばみだから、みせてあげる。

このごろいやなテレビや、とってもおもしろいテレビがあります。これから学校にあがるような子には、とってもつよいえいきょうがあります。わたくしは、おもしろいテレビのほうがいいのがわかっています。マンガなどわたしなんかにはよいが、ちいさい子にはあまりみさせないほうがよいとおもいます。

「おとうさんのしごと」

(一九六六・一〇)

●あなたのおとうさんのしごとについて、あなたはどんなに思っていますか。

小六 女子

私は、父の仕事がすきです。父は、自分の力で力のかぎり仕事をするからです。

でも、時々つかれたといっているから、もう少し力のいらない仕事をえらばよかったと思います。

小六 女子

わたしは、おとうさんの仕事はきらいです。そのりゆうは、わたしのおとうさんは、金物の仕事をしているので、ケガをしないかとしんぱいします。それと、金物などをすっている時など、とってもうるさいので、テレビなど見ていると、チラチラしたり、よく聞こえないからです。だからおとうさんの仕事は、あまりすきではありません。

小五 男子

おとうさんのしごとはいやだ。どうしてかというと、あさ早いからだ。いいところはよるお

そくかえってくるのだ。どうしてかという、テレビがうんとみられるからだ。

小五 男子

ぼくはおとうさんがはたらいしているのはすきだけど、おかあさんがはたらいしているところがきらいです。そのわけは、あさはやくいたり、よるおそくいくからです。でも、よるいくときは、あんばんやなしやりんごがおいてあるからいい。でもぼくは、おかあさんのはたらいしているところがきらい。

「お年玉」

(一九六六・一一)

●いまの子どもたちにとって、正月の最大の関心事は、楽しみは、お年玉のようです。

小五 女子

ことし私がもらったお年玉は、八百円から千円の間でした。らいねんはもらえたらもう少し大きくもらって、ちょ金をしておいて、あとで自分のほしい物を買いたいと思います。

小六 女子

お正月で一番のたのしみは、お年玉です。そのお年玉のふくろをあけてみて、はいっている

のが二百円か三百円のときは、がっかりです。もっといれて子どもをよろこばせてください。

小五 女子

お正月になると、おじいさんたちはお年玉をたくさんくれる。おとうさんたちは少ない。としよになるとお年玉をたくさんくれるらしい。だから、おとうさんもおかあさんも、はやくとしよになればいい。

小六 男子

ぼくたちはまだ子どもだからお年玉をもらえるけれど、おとなになったらやるほうだから、ぼくたちがおとなになったら、お年玉をなくしちゃおう。

「子どもの年賀状」

(一九六七・一一)

●となり同志の子どもまで年賀状を出したりするから、くだらないという意見がありますが、どうでしょう。

小六 男子

だいたい、年賀じょうって、おとなはきまったことかくけどそんなほうがくだらないんじゃない

ない。もつとおもしろいことを考えてかけばいいよ。考えなくせにたくさん出すから、おとなはおかしいよ。

中一 男子

年賀じょうはやめたほうがいい。それはへんじの文しょうをかんがえると、正月なのになのしくなくなるから。

小五 女子

男の子からもらったりするとこれから友だちになれるし、そうすると学校もたのしくなるから、年賀じょうはだし合った方がいいと、おもいます。

中一 男子

年賀じょうなんかださないでその家にじきじきにいつて、おとし玉をもらったほうが、ぼくはいいと思う。

「お年玉の使いみち」

(一九六八・二)

●みんなが手にしたお年玉。どのように使いましたか。貯金をしなさいよ、といわれたことなど、どう思

いますか。

小学 女子

わたしは、お年玉を結婚するまでためておいて、結婚してからちよつとずつ、つかう。そうすれば赤字の時も心づよい。

中学 女子

何に使おうとかってかもしれないが、親に相談したほうが、後で、親にもんくなどいわれないですむと思う。

小学 女子

私には、海や空よりもでっかいでっかい夢がある。それには何百万円というお金が必要だ。それだから、むだ使いをしないで、今からお年玉をためている。

それは、身体障害児のためにだ。

小学 女子

私は必ず貯金する。自分の意志で貯金する。だいたい大人は子どもが貯金することがうれしらしい。もしうちでも、父母がその考えだったら、私はしらずしらずに親孝行をしているわけだ。(ニヤニヤ)

私は一つの目的を置いて貯金をしている。それが何だかは、皆さんのご想像にまかせるとして、私は、目的に一步ずつ近づきつつあるのだ。

小学 女子

おとなは、子どもがお年玉をむだづかいすると、口ぐせのようにいうけど、むだなものってどんなものだろう。おとながむだだと思っても子どもには大切なものがあるだろう。いろいろともんくをいうならおとなどうしもお年玉の出し方を考えてればよい。おとなだって、むだづかいするくせに、

「お年玉」 △おとなの意見▽

(一九六八・二)

「このお年玉は、ぼくがもらったんだから、ぼくの自由に使わせてね。貯金なんていやだよ。」
このとき、あなたは、子どもさんに、どういますか。

母 △三十八歳▽

いままでこういう心配はしたことはありませんが、
「貯金をしなくてはだめですよ。しないのなら、お母さんが預かっておきますよ。」と、

頭からおさえてしまう。

母 △四十五歳▽

家では女の子二人です。

幼稚園のところまでは、百円だけわたして、あとはお母さんがあずかっておくよ、ですみました。学校へいってからは、私の通帳つくってといえますので、作ってやりましたら、お年玉全部を銀行へもっていき、以来、二百円もたまるとせせともっていきます。

行末は、銀行の株主になるでしょう。

父 △四十三歳▽

自由にお金を使うということのむずかしさを、よく話してあげます。

母 △四十六歳▽

お正月のたのしさの反面、私たちの年代になってみると、苦しみの春ともいえます。子どもたちのうれしそうな顔。お年玉は次々とふえ、着かざった晴着。さて、たくさんのお年玉に、ちよっととまどった様子もみえます。

「テレビ」 〈子どもの意見〉

(一九六八・三)

小学 女子

わたしが、グループサウンズのテレビを見ようとすると、お父さんはいじでもみせてくれない。

自分がみたくない番組でも、「おれは見たいんだ」といってがんばる。それでいて、あまり見ていない。そんなお父さんは大きらいだ。

小学 女子

このごろ、グループサウンズがよくもてるので、いつもそれを見る。わたしはあまり好きではない。ほかのをみたいとき、いちおう見せておかないと、見たいものが見られないので、しかたなくみる。どうして、グループサウンズなんて、どこがおもしろいのか、ふしぎだ。

小学 男子

夜、ねる前にテレビを見ていると、「もういいかげんにしてねなさい」という。そして、ねどこにはいると、テレビの声がする。そうすると、その声でねむれない。子どもは早くねかし

て、自分たちで見るなんてずるいと思う。子どもに注意するなら、自分たちでも気をつけてもらいたい。

小学 男子

ぼくは、テレビを見るのはいいと思う。そのかわり、勉強や宿題は、テレビを見る前にやっておけばいいんだと思う。

勉強、勉強っていうけど、そんなに勉強ばかりしなくたっていいんじゃないかと思う。

たまには、自分がみたいテレビを見て、頭をスカッとさせた方がいい。

小学 女子

私の家では、食事中にテレビを見ると、「食べおわってから見なさい」としかる。私は、「お願い」といつてみてしまう。すると、お父さんがテレビをけしてしまう。私は頭にくる。なぜ食事中に見てはいけないの。

「テレビ」 〈おとなの意見〉

(一九六八・三)

●「またそんなくだらないテレビばかり見ているね、そんなひまがあるなら、勉強しなさい」とおかあ

さん。「なんだ、おとなだって、くだらないテレビを、夜おそくまでいっぱい見ているじゃないか」と、子どもが反撃してきました。……

女 〈三十八歳〉

このごろの子ども向のテレビ番組を見てますと、変に悪ふざけしたり、怪物がやたらと出てきたり、時代物と科学物を茶化したりし、何を表わそうとしているのかわからず、子どもの心に何かを感じさせるものが、少いようです。それで、なるべく選ばせたり選んで見せるようにしています。子ども同志の話題の中で、話が合わず、「あの番組皆んな見てるよ」と言われると、見せないのも可愛想にも思い、悩んでいます。

女 〈三十五歳〉

「でもね〇〇君、どれもこれも見てはいけないと言うのではないのよ、一日学校で勉強してきたのだから、息ぬきにある程度はいいけど、あまりいつまでもだらだらはいけないの。それと同じ、大人も休める時間は夜だけ……お母さんたちも、だらだらおそくまでテレビは見ずに、きちんと寝ますからね。」

男 〈四十三歳〉

「おとうさんは、お仕ごと夢中でやるが、テレビを見るのも夢中だ。とくにスポーツとな

るとひどいものだ。でも、おまえたちのように、勉強、テレビ、遊びと、区切りのないやり方と違うんだな。テレビはテレビ、仕ごととは仕ごとというように、きちんと分けて見ているものね。勉強、遊び、テレビ、睡眠というように、時間を守ることが出来れば、どんな番組でも見て悪くないと思うね。」

女 〈四十五歳〉

テレビを見るように、学校の本を読んでくれたら、と情なくなってしまう。

中学の子は、グループサウンズなど見ている時には、

「うちでは、教育ママでなくてよかったね。」

といいながら見ているので、かえす言葉ありません。

「家族ハイキング」 〈子どもの意見〉

(一九六八・四)

●ある日曜日の朝。めずらしくお父さんが、「みんな、ハイキングに出かけようか」といった。

子どもたちは大喜び、だけど、その時お母さんが、「太郎はまだ宿題やってないでしょ、そんなだから

前の年も成績下がったのよ」といった。

「じゃあ、やめようか」とお父さん。

その時、君はどう思う？

小学 女子

そんな時に、成績のことをもち出して、子どもの気持を傷つけることをしないでいいと思う。成績が少しぐらいさがったというだけで、とやかく言う親を、わたしはけいべつするよ。母親の気持ちもわかるけどさ……もっと、子ども心をしてもらいたいな。

子どももいやだけど、もっといやなのは父親じゃないかな。

小学 女子

通信ほの成績のことで、勉強、勉強ってさわがれたら、なおさらやる気がなくなるわ。

(お母さんがこわいからって、無理に勉強している子もいるらしいけど、親のいうとおりにすることないわ。)

子どもには、遊ぶことがとても必要よ。でも、勉強をぜんぜんしないで、遊びだけに夢中になるのも、そりゃあよくないわ。

そんなときは、家族みんなで相談会をひらいて、みんなの意見を聞きあったらどう？

中学 女子

そんなこという親がいたら、「親ににたんだからしかたがないでしょ」といいかえてやる。

中学 女子

いやいやながら勉強させても身にはいらないと思う。自分から進んで勉強するまで待つてほしい。

子どもを信じてほしい、信じあうことができないなら、親子とはいえないだらう。

小学 女子

わたしだったらそんなとき、おかあさんの前にすわって、その目をにらんでやる。

通信ほのことなどは、四月になったらきれいにわすれてくれればいいのに。

中学 男子

おかあさん、そんなこといつてるからきられるんだよ、

もっと心を広く持ちなさい。子どもの気持もわからない親はしかく。

中学 女子

おとなだって、そんなに毎日勉強していたわけでもあるまいし。大学だけが目標のような勉強のいいかたじゃなくて、中学生生活をたのしく、がんばりなさい、というようなおとなであっ

てほしい。

中学 女子

自分の考えてること、どうしても子どもにやらせようという気持なんだから、おかあさんなんて、めんどくみきれないや。

「家族ハイキング」 △おとなの意見▽

(一九六八・四)

●さて、前記の場面にいあわせたおとなとして、あなただったらどうしますか。

市川 孝夫

母「その方がいいと思うわ」

しばらくして、

父「しかし、勉強というのは机に向うことだけではないぞ。山の上から、美しい景色をながめるなどということは、家ではできないすばらしい勉強だと思うな」

母「でも、そんなの試験には役立たないわ」

父「試験には役立たなくても、人生に大きく役立つと思うね。それに、山を歩きながら、草や

花の名をおぼえたり、山道はどうしてくねくねして作られたのかを考えたりしたら、試験にだって役立つよ」

母「そうかもしれないけど……？」

父「試験のための勉強ではなくて、立派な人生をすごすための勉強でなくてはいけないんだ」
母「それでは、みんなで行くことにしましょう。私にはよくわからないけど」

渡辺 政子

母「でもね、せっかくハイキングに行こうといったのですから行きましょう。帰ってから、勉強をがんばってもらえば、いいのですから」

父「うん、そうしようか」

母「いつもおとうさんは、朝早くから夜おそくまでおしごとだから、たまの休みにみんなで楽しく出かけるのもいいでしょ」

父「よしきめた」

「おとうさんの約束違反」 △子どもの意見▽

(一九六八・五)

●ある日のA君の家の家族会議。子どもから父母に抗議が出た。

「みんなが自分でふとんをあげることに約束したのに、お父さんだけ守れないじゃないか。だいたいお母さんにやってもらっているよ」

お母さん

「お父さんは毎日たいへんなんだから、いいじゃないの……」

さて、皆さんの意見は。

中学 女子

家族会議を開いた意味がない。会議の結果「自分自分ですること」ときまったのだから、「つかれるから」なんて、いいわけにならないと思う。

もし、あとからそういう意見が出るなら、会議の時に、どうして意見として言わなかったの？

小学 男子

ほとくの家では、やはりおかあさんがおとうさんのをたたんでいる。おとうさんは、とても力のいる仕事なので、夜になると体中が痛いというたびに、ほとくはせなかをもんでやる。朝はそんなに早く起きません。おきたらすぐにおかあさんがたたむ。でもたまにはおとうさんもじぶんでやればいい。

中学 女子

ふとんをあげることなど、だれにでもできることだから、父親としてちゃんとしないと、しめしがつかないと思う。父をかばう母の心もわかるが、それはまちがっている。家族できめたことなんだから。

私たちがおとなになったら、きまりなどつくらなくても、あたりまえにやるようにしたい。

小学 男子

うちのおとうさんは、少しでもちらかっているとおかあさんをおこる。そんな時は、じぶんでもかたづけてから、ちゅういすればいいのに。

おとなは「ケンカをするな」と子どもにいうが、おとうさんとおかあさんがときどきけんかをするじゃないか。自分ができることだけちゅういすればいい。

中学 女子

親が約束をやぶるようでは、子どもは約束なんてそんなものだ、と思ったりする。そして子どもは親にふまんをもつ。だから、しっかりした生活たいどをみせてほしい。

「寝床のしまつ」 △おとなの意見▽

(一九六八・五)

父 △四十五歳▽

お前たちは不公平というが、お父さんだって子どものころはやってきたんだ。こういうと、昔とはちがうというかもしれないが、これも「しつけ」という勉強だと思って、不平をいわず一生けんめいやってもらいたい。

大嶋 政幸

子どもたちのお父さんの中には、役所、会社、工場、または自分の家で仕ごとをするなど、みんなそれぞれ働いている。

朝早く、みんながまだ温かい布団の中にいる時、すでに駅に向かっているお父さんもいる。朝ごはんも食べないで、大急ぎで家を出ていくお父さんもいる。

こんな時には、せっかくの約束だったが、しかたなくお母さんが代って布団をあげると思います。

お父さんも電車の中で「約束を破ってゴメンネ」と思っているんだろう。

日曜日や、時間によゆうのある時は、自分でやると思うからあまりお父さんをせめないでチャイ。

父 △四十七歳▽

私の家では、長女と次女と交替で、ふとんのしまつをやらせている。子どもたちが出来なかった小さいころは、お母さんやお父さんがやってきたのだ。

長い間、そうして両親にめんどろをかけて大きくなったのだから、感謝の気持で、ふとんのしまつもやるようによく話しあってきたので、二人の子どもも気持よくやっている。学校のつごうで朝早い時などかわりにお母さんが手伝うこともある。

「宿題とおとうさん」 △子どもの意見▽

(一九六八・七)

●教育ママなんていう言葉があるようです。

おとうさんも、少しは宿題などみてくれる教育熱心な方が、いいですか。

小学 女子

私はおとうさんに見てもらうのはいやだ。おとうさんだと、あらっばいしこわい感じがする。だからわたしはどちらかというと、自分一人で頭をひねりながらやるほうがすきだ。それに、おやたちにがやがやいわれてする勉強と、自分からすすんでやるのでは、自分からやるほうがためになるんじゃないかな。

小学 女子

私には姉がいるから、だいたい姉におそわる。

父ではたよりないし、教えてもらったのがまちがっていることが多い。父におそわるなら自分でやった方がまだましだ。

中学 女子

うちの父は、私が小学校のときは勉強をみてくれたが、今ではまったく見てくれない。中学校の問題はむずかしくてわからないと言う。母に聞けばなおさらわからない。

家の父や母の頭って、あんがい弱いんだな。

中学 男子

中学 男子

ほとくの父は、かえってくるなりぼくに勉強しろと言うほうなのです。テレビは、マンガなどほんの少ししか見せてくれません。通信ぼが悪ければとてもおこるし、やかましくて手がつけられません。

じしん、かみなり、かじおやじというがほんとにそうだと思う。こういう父をもつと勉強はむずかしく感じてくるし、やる気をますますなくしてくる。

小学 女子

おとうさんが勉強を教えるなんてみっともない。だいいち聞かれて知らないなんていったらカンロクがなくなる。おとうさんならおとうさんらしく、お茶でも飲みながら新聞でも見てた方が、カッコイイ！

中学 女子

お父さんに数学など聞くと、「こんなのがわからないのか」なんてすぐどなる。どうしてどなる必要があるのか私にはわからない。

小学 女子

おとうさんは、私の勉強のことはめったにいわない。ほかにうちの人で「勉強、勉強」とう

るさくいう人はいない。

それだけに私はのんきになっている。おかあさんがよく「小さい時のほうがきちんとしてましたよ」と口ぐせのようにいう。私もそうだなあと思う。

でも、家中の人が教育熱心でなくてよかったと思っている。

小学 女子

おとうさんは、もう少し本の話や、いろいろな物語など知っていて私たちに聞かせてくれるなどしてくれればいい。

中学 女子

父親は、あまり勉強をやれなどと言わなくてもよいけれど、親としていまどのくらいのをやっているのかぐらいいは知っておくべきだと思う。それに子どもにむかって、お父さんは九十九点以下はとったことがなかった……などというのは、今の父のようすとむじゅんしている。

小学 男子

おとうさんは、会社からつかれてかえってきて、なにも考えないでテレビを見たい気もちはわかる。

でも、ぼくが字などきいたら「あっちに行っておかあさんに聞け！」なんて言うのはやめて

ください。おとうさんも、新聞を見たりして勉強のことを考えてもらいたい。

「宿題とおとうさん」

△おとなの意見▽

(一九六八・七)

●A君が、お父さんに「宿題をみてくれ」といった。

「そんなのお母さんにみてもらいな。お父さんは仕事で、それどころじゃないんだ」といった。

田中 郁子

毎日毎日の仕事で疲れて帰ってくる、お父さん。つい不機嫌でそう言ったかも知れません。決して我が子の勉学に無関心であるはずはありません。もし本心でそう言ったとしたら、ちよっと困ったおとうさんですね。

仕事で一生懸命なのはお父さんだけではありません。

お母さんだって同じです。食事の仕たく、お掃除、洗濯、子どもたちの世話、家計のやりくりなど、お父さん以上に大変かも知れません。

宿題を一緒に考えてやるその僅かな時間、とかく、日ごろ疎遠になりがちな父と子の心の触れ合い。宿題の問題の解き方を通じて、我が子の成長してゆく姿の意外さに、しみじみ

と喜びをまた幸せを感じる一刻ではないでしょうか。子もまた、父への信頼の念を深めてゆくことでしょう。

「お父さん、宿題みてくれよ」と言ってくれるのも、せいぜい小・中学生のうちだけ。高校・大学と進むにつれてそのようなこともなくなり、我が子の成長を頼もしく感じる反面、何か敬遠されがちな、子どもたちを外から垣間みるような寂しさを味わわれる日も、そう遠くはないのでしょうか。

「宿題」父と子の共同作業。考えただけでも、微笑ましい光景ですね。

A君のお父さん、家庭での良き父、また良き勉強相手になってあげてください。

父 〇四十一歳

高学年に進むにつれて、親にもむずかしい問題が多くなり、教えることの出来ない科目もあると思いますが、最初から見てもやれないときめつけず、一緒に勉強するつもりで少しでも教えてやれる時間をつくるのが、子どもにとってどれほど励みになるか。

子どもから信頼される父。子ども心に「お父さんもぼくに期待しているのだ」と感じさせた時、将来は明かるいと思います。

母 〇三十八歳

A君のお父さんのようないいかたでは、子どもはかわいそうです。でも、私たちの家のようなお店でもやっている父親は、とても子どもの勉強相手の時間はありません。サラリーマンなら、夜など子どもの相手にもなれるでしょうが。うちでは朝六時にはもう仕ごです。お昼休みもあります。夜もお店をかたづけてからも、あれこれと用事をひかえています。子どもにはすまない、というも心にひっかかっているようですが、とても今は宿題の相手になるなど考えられません。

「男子のおしゃれ」 〇子どもの意見

(一九六八・八)

●このころ、男の子のおしゃれがめだっているようです。そのことで、皆さんの考えを聞かせてください。

小学 女子

私のクラスに、とてもキザな男の子がいる。横わけをして油をベトベトつけて、ビーズの指わとうで輪をして、ワイシャツのそで口のボタンをわざとはずして、タイガースのやるようなバンドまでしていたそうだ。

そんな男の子が同じ組にいると思うといやな気持ちだ。

小学 女子

男の子がおしゃれするなんて大人からみればおかしいと思うかもしれないけど、男の子たちは、私たちに好意をもたせようと思ってることだから、私たちが悪くいっただらかわいそうだと思う。それに、私たちだっておしゃれをした男の子を見ると少しかっこいいな思っちゃう。でも、おしゃれしなくてもかっこいい男の子になってももらいたい。私たちのクラスにも、おしゃれをしてもてるS君とそうでないT君がいるが、私はやっぱりT君のほうがかっこいいと思う。

中二 女子

ちよっとイヤだな。学校で休み時間にクシを出して一生懸命とかしているんだもん。ああ、気持ち悪い。そしてちよっとあばれると「ヘヤーがみだれた」なんて言ってる。

最高にキザだ。

中一 女子

このごろの男はたるんでいる。

家にも小学生の弟と中三の兄がいて、弟の方はかみなど洗うと、ねぐせがつくといってあみ

などかぶってねる。兄は二週間に一度ぐらい洗うが、まいばんブラシでとかしてあみをかぶってねる。女の私でさえねる前はとかすだけのな。

あのニキビだらけの兄など、かみの形だけよくしてもべつにかっこよくならないのに。

まったく毎日、鏡とにらめっこしてそこに気づかないのかな。

中一 女子

グループサウンズのかみの毛の長いなど悪くいう人がいるが、いつもせいけつにしとけば良いと思う。それをきちがいなどという大人は、みんなとしよりの時代おくれさ。

あのかみの毛だけでもステキじゃない。グッとときちやう。

「男子のおしゃれ」 △おとなの意見▽

(一九六八・八)

●このことで、数人のおじさんで雑談してもらいました。

○くしを持っていくのは認めてあげたいな。我々のときのようにイガグリ頭とはちがうんだから。

○しかしな、女の子の長い髪だってある基準はあるだろう。男の子だってそれらしくすれば学

校へまでくしをもっていかなくてもいいだろうよ。

○中学生がくしをもっていくというのも、一つの身だしなみかな。いやイロケかな。

○いや、アクセサリーということもあるんだろう。

○中学生はね、特別よごれるんですよ、大人のようにはいかないですよ、プールに入ることだってあるし。

○皆さんのころのような、教育勅語式に言えばそうですね。しかし中学生は、いまはだいたい長い毛だよ、オールバックですよ。

○そんなこといつてるから親は子どもをとりしめないんだ。

ドライヤーなんて、中学生が使うのをほうっておくなんて実になさけないんだな。

○二日も三日も、ボサボサ頭でいられると、キチンとしなさいなんていうんじゃない。

○ドライヤーとか、デイトをするとか、子どもが大きくなればまずむずかしいですね。だからもっと大もとを話しあわなければいけないでしょう。

○しかしなあ、俺たちの時代に親と話しあいなんかしたことあるかよ。兵隊にいくことまで、親にないしよで志願しちゃった者だっているよ。

時代がちがうといったって、親子関係というものは、そんなにちがうもんじゃないよ。要す

るに時代の風潮だな。

いまの子どもが親の意志に反して、おしゃれしたって、これは親がおさえてすむ問題じゃないだろう。

○そんな、わかったようなことといって子どもを甘やかす親が多いから、だめなんだよ。

「おとなのしつけ」 △子どもの意見▽

(一九六八・一〇)

小五 男子

おかあさんのじっかへ行くとき、おとうさんはぼくに、あまえるなよといった。そこへいつてからぼくはあまえなかった。

でもおとうさんは、お酒をのんだ。そしておかあさんが何かいうとあまえていた。

おとうさんは、ひとのことばかりいうけど、ぼくはみていてもっときをつけてもらいたいと思った。

小五 女子

子どもに、「兄弟げんかなんかするな」なんていって、ふうふげんかしてるのは、なぜですか。

小五 男子

子どもがはなをたらししていると、きたないというが、おとなは道でつばをはいたりしてとてもきたないと思う。

小四 女子

おかあさんはわたしたちに、勉強しなさいとうるさく言っているけど、わたしがおばあちゃんにきいたら、おかあさんは子どものとき、おばあちゃんに勉強しなさいと言われてもあそんでばかりいたよと言っていた。

小五 男子

おとうさんは、食ってるさい中、ぎょうぎよくしなさいというけど、じぶんはあぐらをかいている。それで、子どものときは、子どものときはというが、まったくあやしい。

それに、テレビを見ていてタバコのはいをすごく長くのばしておっこちそうになります。まったくだらしがない。

「兄弟はなんにんがいい」 △子どもの意見▽

(一九六九・一)

●いまの自分の毎日を考えてみて、なんにん兄弟が、一番いいと思いますか。

小四 清水規弘

ひとりのほうがいいなあ、とぼくは思う。ひとりだとだいにされてあまえられて、なんでも買ってもらえるから、ぼくはひとりのほうがいい。

小三 内山ゆうじ

ぼくは四人兄弟でなかに女が一人いる。おにちゃんはぼくがなんか買いにいくとすぐ「へんなの買うんじゃないか」といばるからきらいだ。だからぼくは一人のほうがいい。

小四 竹田富夫

今、二人兄弟で下が女なので、男がもう一人ほしい。下が女だと兄弟げんかしてもやりがない。男ならおもいきって兄弟げんかができるからです。

小四 飯田美光

男ふたりでよく兄弟げんかをして、いつも弟が泣いてぼくがおこられるから、妹が一人ほしい。

い。妹がいればけんかをしていても、よしなさいとかいって弟を泣かさないですむから、妹がほしい。

小四 三浦剛士

ぼくは一人っ子だから、同じ年の男の子が一人ほしい。雨の日は一人で、だれもあそびあいてがいなくて、マンガをよんだりしている。

小四 水口まゆみ

私の家は女ばかり三人です。一人ではさみしいし、二人ではけんかばかりするし、やっぱり三人がいいと思う。でも二番目のおねえさんが、カッコいいお兄さんならいいと思うな。

小四 森田克司

五人兄弟がいい。ぼくの家は男ばかり四人兄弟だが、ぼくが一番年下でおにいさんたちとけんかをしていつも負けて、ぼくはしかえしできないから、もう一人弟がいれば、ぼくも弟をいじめられる。

「うちのおとうさん」 〈子どもの意見〉

(一九六五・二)

小学 女子

おとうさんがおこるとき、近所にきこえるほどなるから、近所にきこえないぐらいにどなること。

小学 女子

うちのおとうさんは、しごとからかえると、いつもおふろをもす。私たちはとてもたすかる。

小学 女子

おとうさんは、お酒をのむと歌をうたう。子どもがはずかしい歌はやめてもらいたい。

小学 男子

おとうさんは、よっぱらうと足がかるくなって、どっかへいく。

小学 男子

おとうさんは、おもしろいうそをつく。この間、バナナだつつみ紙をだした、あけてみるとたくあんだった。このうそをなおせばいいお父さんなのに。

小学 男子

学校から帰ると、ぼくはいつもなにかたべる。きょうはだんごのほやほやでゆげがふわふわあがっていた。食べたらほったがとれそうな味だった。おかあさんは、こんなことはウルトラCのうでまえだ。

小学 男子

ぼくは学校から帰ったら、おとうさんおかあさんがいつもうちにいてくれればいい。ぼくがおかあさんという、いもうとがいないという。そしてふたりでテレビをみている。

中一 女子

私のおとうさんはおとなしくて、毎日なにを考えているのかまるっきりわからない。そこにいくとおかあさんは正反対です。これが反対になったらいんだけど……。

だっておとうさんたら、おかあさんにまるで子どものようにおこられるときがあるんだもの。おとうさん、がんばって。

「うちのおとうさん」 〈子どもの意見〉

(一九六六・三)

四年 男子

おとうさん

ちょっとのいたずらでもすぐにぶつのはわるいとおもうよ。

妹より、おこづかいをたくさんくれるのはいいとおもうよ。

四年 女子

テストがわるいでも、けっしておこらない、いいおとうさんです。

四年 女子

父にたんじょう日のプレゼントをあげると、涙をだしてよろこんでくれる。父のそういうときが、いちばんすきだ。

四年 女子

わたしが、テストでまちがっているのを父は、とてもよくおしえてくれる。けれど、おなじことを、なんどもなんどもいうので、ちょっといやです。

四年 女子

うちのおとうさんは、すこしでもおもしろいことがあると、ニヤニヤしてかえってくる。でも少しでもないやなときはつまらないかおをしてかえってくる。だからすぐわかる。

四年 女子

うちのおとうさんはやさしくておこつてもわたしたちをひっぱたかない。だけど、ふうふげんかをするときものをなげる。

「おかあさん」 △子どもの意見▽

(一九六六・三)

四年 男子

いつもおかあさんは、遊びにいったこいという。そして、あとでもうあの子とあそんじゃ、いけないという。そういうことがぼくはわかんない。

四年 女子

おかあさんはおこると、ついでにほんとにないことまでいう。

三年 男子

三年 男子

ぼくんちのおかあさんはおこるときすぐたかいこえでおこる。まいにちおこられるたびにそのこえをきくから、みみがへんになってきた。そして、おこるとすぐバカという。あきるほどバカという。じぶんの子がバカならおかあさんのほうが、よっぽどバカなのに。

四年 男子